

# 太陽光発電所 パネルから充電 電動運搬車を開発

## 工技センターと藤崎電機

### 現場の建設作業効率化



県立工業技術センターと藤崎電機が共同開発した電動小型運搬車—徳島市のセンター

徳島県立工業技術センターと藤崎電機（阿南市）が、太陽光発電パネルから直接充電できる電動小型運搬車を開発した。太陽光発電所の建設現場で、パネルからの発電を有効活用するとともに小回りを利かせて資材などを運ぶことができ、作業の効率化に役立つ。災害時の救助支援車や非常用電源としての利用も見込む。

電動小型運搬車は全長1・9メートル、幅1メートル、高さ1メートルで、1人乗りの4輪バギー。タイヤは直径53センチと車体の割に大きく、悪路でも走りやすい。車体前部に蓄電池を、後部に充電でモーターを動かす。最高時速は50キロ。

平時には主に太陽光発電所の建設現場での利用を想定。太陽光パネルは建設途中でも発電しており、パネルの配線を運搬車の充電器のプラグにつなげば電気を取り込み、作業中でも現場で充電できる。車体前部には、ワイオンチを取り付け、これまで人力で運んでいた太くて重い太陽光発電機のケーブルを、楽に移動させることが可能になる。後部に荷台を接続して部品や施工機具も運べる。建設現場以外でも、山間部での木や竹の運搬などに利用できるほか、災害時にはワイオンチでがれきを取り除いたり、荷台で運んだりする救助支援車として活用。後部にコンセントの差し込み口が付いており、ラジオや電灯、家電製品の非常用電源となる。

農作業などに用途を広げるためキャタピラタイプの車両も開発を進めている。藤崎電機が、蓄電池やモーターの開発ノウハウを持つ工業技術センターに共同開発を依頼した。蓄電池やワイオンチを除く車両本体価格が40万円程度の見込みで、販売に向けて準備を進めている。同社は「特に、海外の広大な敷地での太陽光発電所建設で需要が見込めるのではないかとしている。」

（久保高茂）